

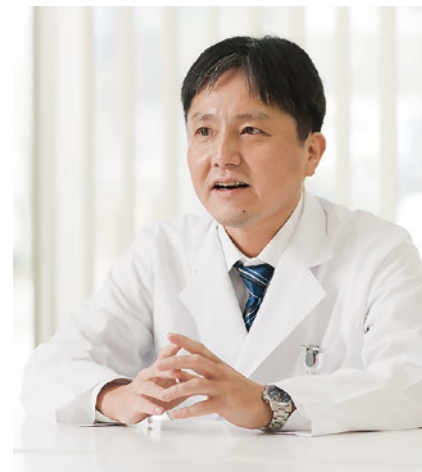
## 認知症疾患医療センター紹介

## 患者さんやご家族に向き合い、高度な認知症医療を提供

認知症疾患医療センター センター長 森 崇明

認知症というのは状態を指す言葉で、もともになる病気は様々です。中でも、アルツハイマー型認知症が一番有名で、患者さんの数も最も多いです。治療も日進月歩で、アルツハイマー型認知症には、コリンエステラーゼ阻害薬と抗NMDA受容体拮抗薬の使用で記憶障害といった症状の進行を遅らせることができます。また、適度な運動や日中の活動の向上・維持も認知症治療に役立ちます。

センターが開設されてから8年が経ちました。この期間、患者さんやご家族の変化を感じます。「認知症」という言葉の浸透とともに情報や治療に対する考えも広まり、早い段階で診療に来られる患者さんが増えました。当院には専門スタッフと十分な設備により高度な医療を提供できる体制が整っています。また様々な診療科との連携により、他の身体疾患を抱えている場合も対応できます。新型コロナウイルス感染症の流行により、初診の患者さんの数が減少傾向にありますが、当院ではしっかりと感染対策を行っています。認知症においても早期発見・早期治療は重要ですので、受診を控えることなくお越しいただきたいと思います。

**PROFILE**

もりたかあき©2000年3月愛媛大学医学部を卒業、2006年に愛媛大学大学院卒業。2012年11月より当院にて講師を務める。2020年4月より現職。専門は老年精神医学、認知症学。最近の趣味は週末に子どもと公園で遊ぶこと。